



2025年1月14日

直流通勤形新型車両 6500系が登場します！

奥武鉄道では2025年度中を目途に、新たな直流通勤形車両、6500系を導入いたします。ますます便利に、快適になる奥武線にご期待ください。また6500系の導入により、老朽化した6000系電車を順次置き換えて参ります。



6500系電車

軌間 1067mm

編成 6両編成

電気方式：直流1500V(架空電車線方式)

最高運転速度 営業120km/h 設計130km/h

起動加速度 7.5km/h/s

減速度 7.5km/h/s(常用) 9.0km/h/s(非常)

全長：20,350mm(先頭車), 20,000mm(中間車)

全高：4050mm パンタ付車両4125mm

車体：アルミニウム合金(新造)

台車：新造

駆動系：新造[ロケットカー]

昭和57(1982)年に当時流行の界磁チョップ制御車として落成した6000系電車は永年の活躍の中でVVVF化改造を受けるなど更新工事を重ねて参りましたが、元々の車両重量が大きいこともあり省エネ化や経済効率という点で難点が目立つようになり、接客設備の陳腐化も呈していることから奥武鉄道はこの度6000系電車の完全置き換えを決定いたしました。

新しく導入される6500系電車は裾に加え肩部をも絞ったアルミ車体で車両を軽量化するとともに加減速もより滑らかにして新時代にふさわしいロケットカーとして設計しております。側面窓は奥武線のこれまでのどの通勤形電車よりも大きなものとして眺望を確保しつつ、車内での犯罪や火災など緊急避難を要する際に備えて全ての窓を一段下降式(途中で引っ掛かりがありますが強く下ろすことで最下段まで下ろすことが可能です)の開閉可能な窓としております。外装意匠は1050系、1070系、9030系に続き河本謙三インダストリアルデザインが監修。9030系と同様に東京都庁や荒川沿いに立つ第一硝子の煙突、別所沼公園、さいたまスーパーアリーナなど沿線の景色を採り入れた図柄を側面に描き、地上線専用車両としてEARTH BROWNとHANIWA BROWNをアクセントカラーに使用しております。正面意匠は昭和期の奥武線の車両へのオマージュとして下部斜めステンレス補強板のほか直流通勤形電車としては6000系以来となる正面貫通型を採用、1050/1070系やキハ400系、450系(2代目)といった近年の車両での造形も踏まえた精悍な顔立ちになりました。最新の大型側面行先表示器も搭載し、令和時代を切り拓く近距離各駅停車、準急系統車両として今後増備されて参ります。